

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28 時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	就職活動を始める前の準備完了を目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	教科書(SUCCESS)			
授業外学習の方法				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 P7働く意義 宿題として出す	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	P7宿題振り返り P9企業が求める人材とは	
	3	就職活動での身だしなみ	P13まで 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	P16まで 特に学校でのルール	
	5	自分自身を知る 自分史の作成 1	P26まで	
	6	自分自身を知る 自分史の作成 2	P26まで	
	7	職業を知る	P29まで 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 1	P36~P45まで 特にインターネットとメールのマナーをお願いします	
	9	情報収集、企業研究、資料請求 3	P36~P45まで 特にインターネットとメールのマナーをお願いします	
	10	求人票の見方 インターンシップとは	P36~P45まで 特にインターネットとメールのマナーをお願いします	
	11	一般常識	P50まで 特にインターネットとメールのマナーをお願いします	
	12	自己PR	一般常識確認	
	13	前期期末試験	自己PR作成	
	14	前期振り返り	一般常識テスト	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28 時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	就職活動を始める前の準備完了を目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	教科書(SUCCESS)			
授業外学習の方法				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	志望動機の作り方 1	P30~34 業界、会社にあった動機作り	
	2	志望動機の作り方 2	P30~34 業界、会社にあった動機作り	
	3	制作書類 1	P58まで エントリーシート	
	4	制作書類 2	P58まで 各種書類(添え状、ポートフォリオ等)	
	5	制作書類 3	P58まで 履歴書作成	
	6	制作書類 4	P58まで 履歴書完成	
	7	企業訪問	P64まで 準備、当日、事後の指導をしてください	
	8	就職試験のマナー 1	P69まで 入退室	
	9	就職試験のマナー 2	P74まで 面接試験対策1	
	10	就職試験のマナー 3	P81まで 面接試験対策2	
	11	筆記試験対策	P89まで 特に小論文の書き方	
	12	小テスト	一般常識テスト	
	13	前期期末試験	面接時の入退室	
	14	前期振り返り	履歴書提出	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	56時間		週時間数	2 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	各担当による				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース I		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等			
授業外学習 の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業進行についての説明	
	2	インプロビゼーション	人前で演じる練習(インプロビゼーション)	
	3	感情開放	人前で演じる練習(感情開放)	
	4	宣材写真基礎知識	宣材写真の基礎知識を学ぶ	
	5	宣材写真ポージング	宣材写真のポージング実習	
	6	宣材写真撮影	宣材写真の撮影	
	7	ボイスサンプル制作①	ボイスサンプルの台本制作を行う	
	8	ボイスサンプル制作②	ボイスサンプルの台本制作、添削を行う	
	9	ボイスサンプル制作③	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)	
	10	ボイスサンプル制作④	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)	
	11	ボイスサンプル制作⑤	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)	
	12	ボイスサンプル制作⑥	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)	
	13	前期期末試験	ボイスサンプルの実演試験	
	14	前期振り返り	オーディション対策、他の人の自己PRを見る	
	15	期末試験フィードバック	ボイスサンプル実演の評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	夏季休暇の課題について	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース I		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等			
授業外学習 の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	前期の学習内容の振り返り	
	2	オーディション基礎知識	オーディションの種類、オーディションの内容について学ぶ	
	3	模擬オーディション実習①	対面を想定した模擬オーディションを行う	
	4	模擬オーディション実習②	オンラインを想定した模擬オーディションを行う	
	5	オーディション対策①	自己PRの見直し	
	6	オーディション対策②	目標とする養成所・事務所についての分析	
	7	オーディション対策③	自己表現	
	8	事務所・養成所基礎知識	事務所・養成所のあり方、選び方	
	9	インプロビゼーション①	即興劇	
	10	インプロビゼーション②	動きを制限した演技表現	
	11	プロとしての心構え①	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける	
	12	プロとしての心構え②	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける	
	13	前期期末試験	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	MC実習 I		指導担当者名	濱尾 美咲
実務経験	MC・ナレーター業に従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	56 時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台上に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	MC基礎知識	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	3	MC基礎知識②	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	4	MC基礎知識④	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	5	MC基礎知識③	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	6	滑舌発音チェック	MC・司会業について実践を交え学ぶ	
	7	イベントMC実習①	食品、スポーツ用品、化粧品のアナウンスイベントMC	
	8	イベントMC実習②	自動車、ゲーム、旅行プランのイベントMC	
	9	イベントMC実習③	住宅展示場、アミューズメントパークのイベントMC	
	10	イベントMC実習④	音楽イベントのMC	
	11	イベントMC実習⑤	eスポーツイベントのMC	
	12	イベントMC実習⑥	結婚式の司会	
	13	前期期末試験	MC基礎知識についてテスト	
	14	前期振り返り	後期学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・振り返り	
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・振り返り	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	MC実習 I		指導担当者名	濱尾 美咲
実務経験	MC・ナレーター業に従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	56 時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	司会、イベントMCなどの知識・技術、MC原稿読み・イベント進行を学び、MCとして舞台上に立てる人材の育成を行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	MC原稿、筆記用具			
授業外学習の方法	ナレーション原稿作成、原稿読み等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	紹介・説明ナレーション②	セミナー紹介、マナー講座、学校授業教材の司会	
	2	案内ナレーション①	店内・店舗アナウンス	
	3	案内ナレーション②	劇場内アナウンス、影ナレ	
	4	案内ナレーション③	電話応答アナウンス	
	5	案内ナレーション④	交通機関のアナウンス	
	6	案内ナレーション⑤	美術館・博物館の音声ガイド	
	7	様々なナレーション①	施設アトラクション、選挙広報アナウンス	
	8	様々なナレーション②	キャラクターショーのMC	
	9	様々なナレーション③	音声ガイド	
	10	様々なナレーション④	冠婚葬祭のナレーション①	
	11	様々なナレーション⑤	冠婚葬祭のナレーション②	
	12	様々なナレーション⑥	ステージイベントMC	
	13	前期期末試験	イベントMC実技テスト	
	14	前期振り返り	後期学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・振り返り	
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・振り返り	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原 悦子	
実務経験	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	なし				
授業外学習 の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る		
	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る		
	8	様々なダンスジャンル②	ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る		
	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る		
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る		
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る		
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る		
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験		
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	期末試験の評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	期末試験の評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原 悦子	
実務経験	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	なし				
授業外学習 の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振り付け振り返り 等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	前期振り返り	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	2	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	3	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	4	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	5	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	6	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック		
	7	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	8	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	9	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	10	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	11	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	12	振り付け⑩	ダンス実習 実技小テスト		
	13	後期期末試験	ダンス発表		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ダンス発表の評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ダンス発表の評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習 I		指導担当者名	宗方 和子	
実務経験	司会業、ナレーターとして従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	はじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿				
授業外学習 の方法	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的・流れの説明、ナレーションとは		
	2	コマーシャルナレーション①	コマーシャルナレーション基礎知識		
	3	コマーシャルナレーション②	声のトーンでナレーションのイメージに変化をつける		
	4	コマーシャルナレーション③	様々なコマーシャルナレーション原稿を読む		
	5	声の響きについて	自分の声の響きや特徴を理解する		
	6	様々なナレーション①	映画番組の予告ナレーション演習		
	7	様々なナレーション②	ドキュメンタリーナレーション		
	8	様々なナレーション③	コメディナレーション		
	9	様々なナレーション④	旅行番組、お店の紹介ナレーション		
	10	様々なナレーション⑤	動物番組ナレーション		
	11	様々なナレーション⑥	企業紹介ナレーション		
	12	様々なナレーション⑦	店内アナウンス		
	13	前期期末試験	ナレーションの実技試験		
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ナレーションの実技試験の評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ナレーションの実技試験の評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習 I		指導担当者名	宗方 和子	
実務経験	司会業、ナレーターとして従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	文意を読み取り、スポンサー企業や制作者の意図するナレーション技術の習得				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	はじめてのナレーショントレーニング、本番ナレーション原稿				
授業外学習 の方法	外部スタジオでのナレーション収録への参加、授業内で出した課題の実技練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	様々なナレーション⑧	劇場内などの案内ナレーション		
	2	様々なナレーション⑨	博物館、イベント広報アナウンス		
	3	様々なナレーション⑩	音声ガイド、結婚式映像ナレーション		
	4	声、呼吸のトレーニング	呼吸と発声の確認		
	5	アクセント、イントネーションの確認	アクセント辞典の使い方、イントネーションについて		
	6	プロミネンス	プロミネンス(強調)のトレーニング		
	7	アーティキュレーション	アーティキュレーション(滑舌)のトレーニング		
	8	フレージング	フレージング(句節法)のトレーニング		
	9	ポーズ	ポーズ(間)のトレーニング		
	10	リズム	リズムのトレーニング		
	11	長物ナレーション	長物原稿のナレーショントレーニング		
	12	紀行物ナレーション	紀行物原稿のナレーショントレーニング		
	13	後期期末試験	ナレーション実技試験		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ナレーション実技試験の評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ナレーション実技試験の評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	音響制作、スタジオ経営者			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習 の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで		
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存		
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音		
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF オーダシティ① 録音		
	5	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1		
	6	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1		
	7	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	8	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	9	ボイスサンプル研究①	現役声優のサンプル研究、自己PR録音編集		
	10	ボイスサンプル研究②	現役声優のサンプル研究、セリフ録音編集		
	11	ボイスサンプル研究③	現役声優のサンプル研究、ナレーション録音編集		
	12	ボイスサンプル研究④	現役声優のサンプル研究、歌唱録音編集		
	13	前期期末試験	ボイスサンプル完成、提出		
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ボイスサンプル評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ボイスサンプル評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	音響制作、スタジオ経営者			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間	週時間数	3時間		
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習 の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①		
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②		
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	13	前期期末試験	ボイスドラマ完パケ		
	14	前期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ボイスドラマ評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ボイスドラマ評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I		指導担当者名	ちばえみ
実務経験	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組員。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	演技とは何か?	演技の基礎知識	
	3	実践トレーニング①	演劇における声の出し方、基礎トレーニング①	
	4	実践トレーニング②	演劇における声の出し方、基礎トレーニング②	
	5	実践トレーニング③	演劇における立ち振る舞い①	
	6	実践トレーニング④	演劇における立ち振る舞い②	
	7	実践トレーニング⑤	エチュード①	
	8	実践トレーニング⑥	エチュード②	
	9	実践トレーニング⑦	感情表現「喜」	
	10	実践トレーニング⑦	感情表現「怒」	
	11	実践トレーニング⑧	感情表現「哀」	
	12	実践トレーニング⑨	感情表現「楽」	
	13	前期期末試験	感情表現 即興劇 実技テスト	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I		指導担当者名	ちばえみ
実務経験	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組員。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①	
	2	舞台稽古	キャスト別台本読み②	
	3	舞台稽古	立ち稽古①	
	4	舞台稽古	立ち稽古②	
	5	舞台稽古	立ち稽古③	
	6	舞台稽古	立ち稽古④	
	7	舞台稽古	立ち稽古⑤	
	8	舞台稽古	通し稽古①	
	9	舞台稽古	通し稽古②	
	10	舞台稽古	通し稽古③	
	11	舞台稽古	リハーサル	
	12	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み	
	13	後期期末試験	舞台本番 にて実技試験	
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習 I		指導担当者名	難波 恭介	
実務経験	役者			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	正しい発声に必要な身体能力・筋力の向上、柔軟な身体の維持				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	トレーニングマット				
授業外学習の方法	自己の能力に合わせたトレーニングメニューの実施				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	ストレッチ 筋トレ①	正しいストレッチと筋トレのやり方を覚える		
	3	ストレッチ 筋トレ②	正しいストレッチと筋トレのやり方を覚える		
	4	ストレッチ 筋トレ③	正しいストレッチと筋トレのやり方を覚える		
	5	プランクトレーニング①	体幹を鍛えるプランクトレーニングについて学ぶ		
	6	プランクトレーニング②	体幹を鍛えるプランクトレーニングについて学ぶ		
	7	プランクトレーニング③	体幹を鍛えるプランクトレーニングについて学ぶ		
	8	リズムトレーニング①	リズム感を養うリズムトレーニング		
	9	リズムトレーニング②	リズム感を養うリズムトレーニング		
	10	リズムトレーニング③	リズム感を養うリズムトレーニング		
	11	体カづくり①	効果的な体カづくりについて学ぶ		
	12	体カづくり②	効果的な体カづくりについて学ぶ		
	13	前期期末試験	トレーニング実習 期末試験		
	14	前期振り返り	前期学習内容振り返り		
	15	期末試験フィードバック	トレーニング実習 期末試験 評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	トレーニング実習 期末試験 評価・フィードバック		
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習 I		指導担当者名	難波 恭介	
実務経験	役者			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	正しい発声に必要な身体能力・筋力の向上、柔軟な身体の維持				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	トレーニングマット				
授業外学習の方法	自己の能力に合わせたトレーニングメニューの実施				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	確認テスト メソッド⑫	前期の確認		
	2	筋肉トレーニング①	有酸素運動・無酸素運動について学ぶ		
	3	筋肉トレーニング②	有酸素運動・無酸素運動について学ぶ		
	4	筋肉トレーニング③	基礎代謝を上げる筋肉トレーニングについて学ぶ		
	5	筋肉トレーニング④	基礎代謝を上げる筋肉トレーニングについて学ぶ		
	6	筋肉トレーニング⑤	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	7	筋肉トレーニング⑥	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	8	筋肉トレーニング⑦	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	9	筋肉トレーニング⑧	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	10	筋肉トレーニング⑨	自分にあう筋肉トレーニングメニューの作成		
	11	筋肉トレーニング⑩	自分にあう筋肉トレーニングメニューの実践①		
	12	筋肉トレーニング⑪	自分にあう筋肉トレーニングメニューの実践②		
	13	前期期末試験	筋力・体カテスト		
	14	前期振り返り	後期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	筋力・体カテスト 評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	筋力・体カテスト 評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習 I		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	112 時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	<p>前期:YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	PC、音響機材、台本			
授業外学習の方法	企画書作成、台本作成等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明、教材について	
	2	SWAY①	MicrosoftSWAYのブラウザアプリの使用方法を学ぶ	
	3	SWAY②	MicrosoftSWAYのブラウザアプリを使用した紹介ページを作成する。	
	4	アプリ、ソフトウェアについて	アプリケーション、ソフトのインストール	
	5	YouTubeアカウント作成	在学中の活動用アカウント、チャンネル作成、YouTubeStudioについて学ぶ	
	6	アバター制作①	NICECAMERA等のアプリを使用したアバター制作について学ぶ	
	7	アバター制作②	実際にアバターを作成し、動かし方を学ぶ	
	8	OBSについて①	OBSstudioのインストール、機能理解	
	9	OBSについて②	OBSstudioの使用法、設定、画面レイアウトを行う	
	10	動画用素材作成①	YouTubeチャンネルのパナー、透かし、プロフィールようアイコンについて学ぶ	
	11	録画用素材作成②	YouTubeチャンネル用のパナー、透かし、プロフィールアイコンを実際に作成する	
	12	Vチューバー自己紹介動画の制作①	動画用背景、アバターを使用したVチューバー自己紹介動画をOBSで録画する。	
	13	Vチューバー自己紹介動画の制作②	録画した動画にテロップ、BGM、SEを入れてVチューバーの自己紹介動画を完成させる	
	14	前期振り返り	前期授業内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	アップロードした動画の完成度・閲覧数などを確認、評価	
	16	期末試験フィードバック	アップロードした動画の完成度・閲覧数などを分析、フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習 I		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	112 時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	前期:YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC、音響機材、台本			
授業外学習の方法	企画書作成、台本作成等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	舞台基礎①	舞台の基礎知識、役者、スタッフの役割について学ぶ	
	2	舞台基礎②	舞台の基礎知識、舞台の道具、舞台の構造について学ぶ	
	3	衣装制作①	舞台衣装の制作実習	
	4	衣装制作②	舞台衣装の制作実習	
	5	大道具制作①	舞台道具の制作実習	
	6	大道具制作②	舞台道具の制作実習	
	7	舞台稽古①	台本の内容、セリフを覚える。	
	8	舞台稽古②	台本無し、動き有りの演技	
	9	舞台稽古③	本番に向けた稽古を重ねる、舞台演出について学ぶ	
	10	企画、構成	企画チームを発足し、ボイスドラマ制作の企画を行う	
	11	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成	
	12	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成	
	13	後期期末試験	プレゼン資料の提出、プレゼンテーションを行う	
	14	後期振り返り	後期の授業内容の振り返りを行う	
	15	期末試験フィードバック	プレゼン資料・プレゼンテーションの評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	プレゼン資料・プレゼンテーションの評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	28 時間	週時間数	1週/28時間	
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。			
評価方法 評価基準	筆記試験、出席率、模擬試験結果、検定結果による評価を行う 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト			
授業外学習 の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く	
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する	
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する	
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる	
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く	
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する	
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客対応、1-2電話対応	
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性	
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション	
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応	
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接	
	13	検定対策	模擬試験	
	14	期末試験	検定本番	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I	指導担当者名	矢田部 翔子	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	声優科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180 時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る 			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で1年間の集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」 			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習 の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても 可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、発表機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンを実施 そこで一定の評価があれば合格とする ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科2、3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28 時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	3	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2	
	4	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2	
	5	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2	
	6	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2	
	7	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	8	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	9	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
	10	個別指導1	書類添削、面接指導	
	11	個別指導2	書類添削、面接指導	
	12	個別指導3	書類添削、面接指導	
	13	個別指導4	書類添削、面接指導	
	14	個別指導5	書類添削、面接指導	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	全学科2、3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	28 時間		週時間数	1時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習 の方法					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあつた動機作り		
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあつた動機作り		
	3	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2		
	4	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2		
	5	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2		
	6	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2		
	7	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	8	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	9	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	10	個別指導1	書類添削、面接指導		
	11	個別指導2	書類添削、面接指導		
	12	個別指導3	書類添削、面接指導		
	13	個別指導4	書類添削、面接指導		
	14	個別指導5	書類添削、面接指導		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	全学科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊	
実務経験				実務経験:	
開講時期	通年		対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	56時間		週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	各担当による				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。		
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。		
	15	期末試験フィードバック			
	16	期末試験フィードバック			
履修上の留意点					
<p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース実習Ⅱ		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業進行についての説明	
	2	インプロビゼーション	人前で演じる練習(インプロビゼーション)	
	3	感情開放	人前で演じる練習(感情開放)	
	4	宣材写真基礎知識	宣材写真の基礎知識を学ぶ	
	5	宣材写真ポージング	宣材写真のポージング実習	
	6	宣材写真撮影	宣材写真の撮影	
	7	ボイスサンプル制作①	ボイスサンプルの台本制作を行う	
	8	ボイスサンプル制作②	ボイスサンプルの台本制作、添削を行う	
	9	ボイスサンプル制作③	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)	
	10	ボイスサンプル制作④	ボイスサンプルの台本練習(セリフ)	
	11	ボイスサンプル制作⑤	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)	
	12	ボイスサンプル制作⑥	ボイスサンプルの台本練習(ナレーション)	
	13	前期期末試験	ボイスサンプルの実演試験	
	14	前期振り返り	オーディション対策、他の人の自己PRを見る	
	15	期末試験フィードバック	ボイスサンプル実演の評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	夏季休暇の課題について	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース実習Ⅱ		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	瞬発力・発想力・語彙力を向上し、オーディションにおける自己PR、キャラづくりを行う。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	筆記用具、パソコン、メイク道具 等			
授業外学習 の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	前期の学習内容の振り返り	
	2	オーディション基礎知識	オーディションの種類、オーディションの内容について学ぶ	
	3	模擬オーディション実習①	対面を想定した模擬オーディションを行う	
	4	模擬オーディション実習②	オンラインを想定した模擬オーディションを行う	
	5	オーディション対策①	自己PRの見直し	
	6	オーディション対策②	目標とする養成所・事務所についての分析	
	7	オーディション対策③	自己表現	
	8	事務所・養成所基礎知識	事務所・養成所のあり方、選び方	
	9	インプロビゼーション①	即興劇	
	10	インプロビゼーション②	動きを制限した演技表現	
	11	プロとしての心構え①	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける	
	12	プロとしての心構え②	声優としての心構え、マナー、社会性を身に付ける	
	13	前期期末試験	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)	
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	模擬オーディション(自己PR、セリフ、ナレーション)評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋 有紗	
実務経験	声優・役者としてプロダクション所属の経験			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	台本				
授業外学習の方法	台本読み、役作りなど				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの確認		
	2	アテレコの基礎知識①	外画について、外画の見方について		
	3	アテレコの基礎知識②	アテレコ、アフレコの違いについて		
	4	アテレコの基礎知識③	外画の視聴、解説等		
	5	アテレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技)①		
	6	アテレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技)②		
	7	アテレコ実習③	日常会話(コミカル)①		
	8	アテレコ実習④	日常会話(コミカル)②		
	9	ラジオドラマについて①	ラジオドラマについて		
	10	ラジオドラマについて②	ラジオドラマ実習		
	11	アテレコ実習⑤	日常会話(ショートムービー)①		
	12	アテレコ実習⑥	日常会話(ショートムービー)②		
	13	前期期末試験	アテレコ実践テスト(日常会話)		
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	アテレコ実践テスト(日常会話) 評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	アテレコ実践テスト(日常会話) 評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋 有紗	
実務経験	声優・役者としてプロダクション所属の経験			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アテレコの基礎知識を学び、アテレコ表現を習得する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	台本				
授業外学習 の方法	台本読み、役作りなど				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	前期の振り返り、後期の流れ確認		
	2	アテレコ実習⑦	海外ドラマ(専門用語系)①		
	3	アテレコ実習⑧	海外ドラマ(専門用語系)②		
	4	アテレコ実習⑨	海外ドラマ(ホラー系)①		
	5	アテレコ実習⑩	海外ドラマ(ホラー系)②		
	6	ラジオ番組①	ラジオ番組実習		
	7	アテレコ実習⑪	映画作品一本通し①		
	8	アテレコ実習⑫	映画作品一本通し②		
	9	アテレコ実習⑬	映画作品一本通し③		
	10	ラジオ番組②	ラジオ番組実習		
	11	アテレコ実習⑭	映画作品一本通し④		
	12	アテレコ実習⑮	映画作品一本通し⑤		
	13	後期期末試験	アテレコ現場と想定した実技テスト		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック		
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原 悦子	
実務経験	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	なし				
授業外学習 の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振付振り返り 等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	柔軟、筋トレ、バーレッスン①	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	3	柔軟、筋トレ、バーレッスン②	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	4	柔軟、筋トレ、バーレッスン③	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	5	柔軟、筋トレ、バーレッスン④	ダンスの基礎である柔軟性や筋カトレーニングのやり方を覚える		
	6	柔軟、筋トレ、バーレッスン⑤	ヒップホップについて知る		
	7	様々なダンスジャンル①	ビバップ、ブレイク、ロック、ポップについて知る		
	8	様々なダンスジャンル②	ダブステップ、フレキシング、レゲエについて知る		
	9	様々なダンスジャンル③	バレエ、ジャズ、タップダンスについて知る		
	10	様々なダンスジャンル④	フラメンコ、フラダンス、社交ダンスについて知る		
	11	様々なダンスジャンル⑤	タンゴ、ベリーダンスについて知る		
	12	様々なダンスジャンル⑥	コンテンポラリーダンスについて知る		
	13	前期期末試験	ダンスの基礎実技試験		
	14	前期振り返り	前期の学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	期末試験の評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	期末試験の評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原 悦子	
実務経験	ダンススタジオ経営、ダンサーとしての業務に従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス表現の基礎学ぶ ・体力の向上を図る ・肉体の柔軟性の向上を図る 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	なし				
授業外学習 の方法	自宅でのストレッチ・筋トレ、動画での振り付け振り返り 等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	2	振り付け①	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	3	振り付け②	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	4	振り付け③	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	5	振り付け④	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	6	振り付け⑤	振り付けの中間確認を行う・フィードバック		
	7	中間発表	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	8	振り付け⑥	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	9	振り付け⑦	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	10	振り付け⑧	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	11	振り付け⑨	ダンス発表に向けた振り付けと反復練習		
	12	振り付け⑩	ダンス実習 実技小テスト		
	13	後期期末試験	ダンス発表		
	14	後期振り返り	後期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ダンス発表の評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ダンス発表の評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	音響制作、スタジオ経営者			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集応用 ・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上 ・2年生:ボイスドラマの制作 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習 の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで		
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存		
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音		
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音		
	5	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1		
	6	波形編集ソフト②	オーダシティ② 波形編集・エフェクト1		
	7	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	8	波形編集ソフト③	オーダシティ③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	9	ボイスサンプル研究①	現役声優のサンプル研究、自己PR録音編集		
	10	ボイスサンプル研究②	現役声優のサンプル研究、セリフ録音編集		
	11	ボイスサンプル研究③	現役声優のサンプル研究、ナレーション録音編集		
	12	ボイスサンプル研究④	現役声優のサンプル研究、歌唱録音編集		
	13	前期期末試験	ボイスサンプル完成、提出		
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ボイスサンプル評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ボイスサンプル評価・フィードバック		
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	音響制作、スタジオ経営者			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間	週時間数	3時間		
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集応用 ・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上 ・2年生:ボイスドラマの制作 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①		
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②		
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画		
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング		
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出		
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業		
	13	前期期末試験	ボイスドラマ完パケ		
	14	前期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り		
	15	期末試験フィードバック	ボイスドラマ評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	ボイスドラマ評価・フィードバック		
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋 有紗	
実務経験	声優・役者としてプロダクション所属の経験			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アフレコに関する基礎的な知識を身に付け、アフレコ表現ができるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	台本、筆記用具				
授業外学習の方法	台本読み、役作り等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明		
	2	基礎知識①	アフレコに関する知識、事務所・養成所について		
	3	基礎知識②	現在のアフレコについての知識		
	4	機材実習	アフレコに必要な機材について、機材の設営について		
	5	台本実習	台本の読み方、めくり方について		
	6	マイクワーク実習	マイクワークについて		
	7	アフレコ実習①	日常会話(ナチュラルな演技) 喜楽①		
	8	アフレコ実習②	日常会話(ナチュラルな演技) 喜楽②		
	9	アフレコ実習③	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀①		
	10	アフレコ実習④	日常会話(ナチュラルな演技) 怒哀②		
	11	アフレコ実習⑤	日常会話(ナチュラルな演技) 複雑な感情表現		
	12	アフレコ実習⑥	日常会話(ナチュラルな演技)		
	13	前期期末試験	日常会話のアフレコ表現の実技テスト		
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	実技テスト振り返り		
	16	期末試験フィードバック	実技テスト振り返り		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋 有紗	
実務経験	声優・役者としてプロダクション所属の経験			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アフレコに関する基礎的な知識を身に着け、アフレコ表現ができるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	台本、筆記用具				
授業外学習の方法	台本読み、役作り等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	前期振り返り、後期授業内容の確認		
	2	アフレコ実習①	ボイスコミック①		
	3	アフレコ実習②	ボイスコミック②		
	4	アフレコ実習③	ボイスコミック③		
	5	アフレコ実習④	ゲーム台本①		
	6	アフレコ実習⑤	ゲーム台本②		
	7	アフレコ実習⑥	アクション①		
	8	アフレコ実習⑦	アクション②		
	9	アフレコ実習⑧	アクション③		
	10	アフレコ実習⑨	作品一本通し①		
	11	アフレコ実習⑩	作品一本通し②		
	12	アフレコ実習⑪	作品一本通し③		
	13	前期期末試験	アフレコ現場を想定した実技テスト		
	14	前期振り返り	後期授業内容の確認		
	15	期末試験フィードバック	実技テスト振り返り		
	16	期末試験フィードバック	実技テスト振り返り		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ		指導担当者名	ちばえみ
実務経験	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション	
	2	演劇の基礎知識①	時間・稽古・公演・役職の名称とその役割について学ぶ	
	3	演劇の基礎知識②	演劇に関わる役職の詳細を知る	
	4	演劇制作	演劇舞台における「制作」について学ぶ	
	5	演劇演出	演劇舞台における「演出」について学ぶ	
	6	演劇装置	演劇における「舞台装置」について学ぶ	
	7	音響・照明	演劇における「音響」「照明」について学ぶ	
	8	演劇台本①	台本の仕組みについて学ぶ	
	9	演劇台本②	演劇の台本を読む①	
	10	演劇台本③	演劇の台本を読む②	
	11	演劇キャストオーディション	演劇のキャストオーディション実施	
	12	演劇キャスト	役作り、台本読み	
	13	演劇キャスト	役作り、台本読み	
	14	前期振り返り	前期学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ		指導担当者名	ちばえみ
実務経験	県内外のMC・ナレーターに従事。日本俳優連合会組合員。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	演技表現の基礎を学び、本番の舞台公演を完成させ、多岐にわたる舞台制作のスキルを身に付ける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	台本			
授業外学習の方法	自宅での台本読み、発声、役作り 等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	期末試験振り返り	キャスト別台本読み①	
	2	舞台稽古	キャスト別台本読み②	
	3	舞台稽古	立ち稽古①	
	4	舞台稽古	立ち稽古②	
	5	舞台稽古	立ち稽古③	
	6	舞台稽古	立ち稽古④	
	7	舞台稽古	立ち稽古⑤	
	8	舞台稽古	通し稽古①	
	9	舞台稽古	通し稽古②	
	10	舞台稽古	通し稽古③	
	11	舞台稽古	リハーサル	
	12	舞台稽古	ゲネプロ、仕込み	
	13	前期期末試験	舞台公演本番 実技テスト	
	14	前期振り返り	後期学習内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	実技テスト 評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習Ⅱ	指導担当者名	難波 恭介
実務経験	役者経験		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間
学習到達目標	正しい発声に必要な身体能力・筋力の向上、柔軟な身体の維持		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	トレーニングマット		
授業外学習の方法	自己の能力に合わせたトレーニングメニューの実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	ストレッチ 筋トレ①	正しいストレッチと筋トレのやり方を覚える
	3	ストレッチ 筋トレ②	正しいストレッチと筋トレのやり方を覚える
	4	ストレッチ 筋トレ③	正しいストレッチと筋トレのやり方を覚える
	5	プランクトレーニング①	体幹を鍛えるプランクトレーニングについて学ぶ
	6	プランクトレーニング②	体幹を鍛えるプランクトレーニングについて学ぶ
	7	プランクトレーニング③	体幹を鍛えるプランクトレーニングについて学ぶ
	8	リズムトレーニング①	リズム感を養うリズムトレーニング
	9	リズムトレーニング②	リズム感を養うリズムトレーニング
	10	リズムトレーニング③	リズム感を養うリズムトレーニング
	11	体カづくり①	効果的な体カづくりについて学ぶ
	12	体カづくり②	効果的な体カづくりについて学ぶ
	13	前期期末試験	トレーニング実習 期末試験
	14	前期振り返り	前期学習内容振り返り
	15	期末試験フィードバック	トレーニング実習 期末試験 評価・フィードバック
	16	期末試験フィードバック	トレーニング実習 期末試験 評価・フィードバック
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	難波 恭介	
実務経験				実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84 時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	正しい発声に必要な身体能力・筋力の向上、柔軟な身体の維持				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	トレーニングマット				
授業外学習の方法	自己の能力に合わせたトレーニングメニューの実施				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	確認テスト メソッド⑫	前期の確認		
	2	筋肉トレーニング①	有酸素運動・無酸素運動について学ぶ		
	3	筋肉トレーニング②	有酸素運動・無酸素運動について学ぶ		
	4	筋肉トレーニング③	基礎代謝を上げる筋肉トレーニングについて学ぶ		
	5	筋肉トレーニング④	基礎代謝を上げる筋肉トレーニングについて学ぶ		
	6	筋肉トレーニング⑤	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	7	筋肉トレーニング⑥	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	8	筋肉トレーニング⑦	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	9	筋肉トレーニング⑧	発声に必要な筋肉トレーニングを学ぶ		
	10	筋肉トレーニング⑨	自分にあう筋肉トレーニングメニューの作成		
	11	筋肉トレーニング⑩	自分にあう筋肉トレーニングメニューの実践①		
	12	筋肉トレーニング⑪	自分にあう筋肉トレーニングメニューの実践②		
	13	前期期末試験	筋力・体カテスト		
	14	前期振り返り	後期学習内容の振り返り		
	15	期末試験フィードバック	筋力・体カテスト 評価・フィードバック		
	16	期末試験フィードバック	筋力・体カテスト 評価・フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習Ⅱ		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	<p>前期:YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	PC、音響機材、台本			
授業外学習の方法	企画書作成、台本作成等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れの説明、教材について	
	2	SWAY①	MicrosoftSWAYのブラウザアプリの使用方法を学ぶ	
	3	SWAY②	MicrosoftSWAYのブラウザアプリを使用した紹介ページを作成する。	
	4	アプリ、ソフトウェアについて	アプリケーション、ソフトのインストール	
	5	YouTubeアカウント作成	在学中の活動用アカウント、チャンネル作成、YouTubeStudioについて学ぶ	
	6	アバター制作①	NICECAMERA等のアプリを使用したアバター制作について学ぶ	
	7	アバター制作②	実際にアバターを作成し、動かし方を学ぶ	
	8	OBSについて①	OBSstudioのインストール、機能理解	
	9	OBSについて②	OBSstudioの使用法、設定、画面レイアウトを行う	
	10	動画用素材作成①	YouTubeチャンネルのパナー、透かし、プロフィールようアイコンについて学ぶ	
	11	録画用素材作成②	YouTubeチャンネル用のパナー、透かし、プロフィールアイコンを実際に作成する	
	12	Vチューバー自己紹介動画の制作①	動画用背景、アバターを使用したVチューバー自己紹介動画をOBSで録画する。	
	13	Vチューバー自己紹介動画の制作②	録画した動画にテロップ、BGM、SEを入れてVチューバーの自己紹介動画を完成させる	
	14	前期振り返り	前期授業内容の振り返り	
	15	期末試験フィードバック	アップロードした動画の完成度・閲覧数などを確認、評価	
	16	期末試験フィードバック	アップロードした動画の完成度・閲覧数などを分析、フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習Ⅱ		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	声優科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84 時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	前期:YouTubeチャンネルを作成しVチューバー体験、動画制作体験を行う。 後期:舞台公演に向けた舞台の基礎知識、衣装制作、大道具制作を行う。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC、音響機材、台本			
授業外学習の方法	企画書作成、台本作成等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	舞台基礎①	舞台の基礎知識、役者、スタッフの役割について学ぶ	
	2	舞台基礎②	舞台の基礎知識、舞台の道具、舞台の構造について学ぶ	
	3	衣装制作①	舞台衣装の制作実習	
	4	衣装制作②	舞台衣装の制作実習	
	5	大道具制作①	舞台道具の制作実習	
	6	大道具制作②	舞台道具の制作実習	
	7	舞台稽古①	台本の内容、セリフを覚える。	
	8	舞台稽古②	台本無し、動き有りの演技	
	9	舞台稽古③	本番に向けた稽古を重ねる、舞台演出について学ぶ	
	10	企画、構成	企画チームを発足し、ボイスドラマ制作の企画を行う	
	11	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成	
	12	制作実習	ボイスドラマの台本作成、プレゼン資料作成	
	13	後期期末試験	プレゼン資料の提出、プレゼンテーションを行う	
	14	後期振り返り	後期の授業内容の振り返りを行う	
	15	期末試験フィードバック	プレゼン資料・プレゼンテーションの評価・フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	プレゼン資料・プレゼンテーションの評価・フィードバック	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	声優科 2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28 時間	週時間数	1週/28時間
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格		
評価方法 評価基準	・出席率・模擬試験点数評価・授業態度・試験結果 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの復習等		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権
	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物
	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物
	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	矢田部 翔子	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 卒業年次生	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	・卒業生:2年間の集大成として学んだことを発揮する			
評価方法 評価基準	・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で卒業生としての集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習 の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム (週)	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても 可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			